

## B部門 佳作

### 「家事労働者と生活者の格差を埋める空間」

上原 しのぶ(うへはら しのぶ)

#### 家事労働者と生活者の格差を埋める空間 2011

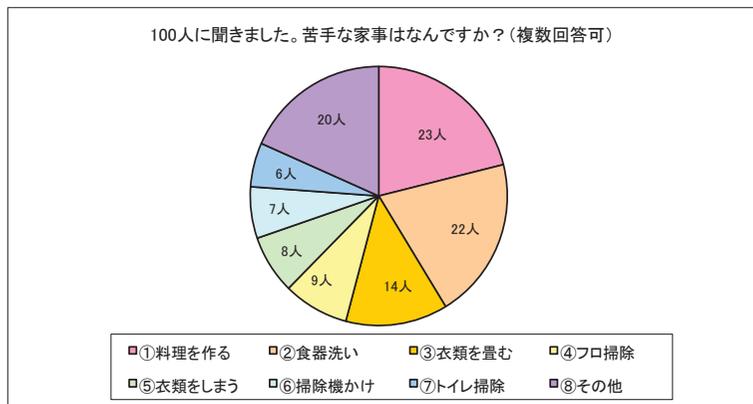
##### 【本命題の背景と問題意識】

専業主婦（夫）は生活者（ここでも家事労働をしない人全般を指す）から外で勤務するより気楽で、体力的にもラクだろうと見られていることが多い（しばしばマスメディアなどで取り上げられている）が、まったくそのようなことはない。家事労働は24時間365日労働であり、企業でのサラリーマン活動とは違い、賃金も発生しなければ休日もない。ましてや有給など無い。

近年では夫婦共働きが多く、家事労働の負担がますます多くなったため、家事労働における助け合い夫婦というのが注目されてきたが、根本的に家事労働の量が減ったわけではない。根本的な家事労働量が減るような空間を構成することが問題解決に繋がるであろうと仮定する。

##### 【アンケート】

年齢層を特に設定することなく、世間的に専業主婦（夫）と呼ばれる人100人に対してアンケートを行った。結果は下記グラフの通りである。



##### 【アンケート結果】

全体の約1/3を占めている「①料理を作る」、「②食器洗い」はどちらもキッチンに関する問題であり、「④風呂掃除」、「⑥掃除機かけ」、「⑦トイレ掃除」は家の掃除に対する回答である。意外な回答としては、「洗濯（洗って干す）」と回答した人が0であるのに対し、「③衣類を畳む」、「⑤衣類をしまう」のようなその後の過程を苦手としている人が多い。

##### 【提案内容に基づくアイデア】

「家事労働量を減らす空間・構成」を本命題のテーマとする。このテーマにおいて、3つの視点から考察したいと思う。

1つ目の視点は家事労働における「楽しさ」を追求する。家事労働を楽しむことは、料理を作るなどの創造的活動を高める＝知的生産性を高めることに繋がる。

2つ目は「早さ」。家事労働にスピードを加えることで、家事労働者の生活全体の「時間」に刺激を与える。

3つ目は「楽（らく）さ」。心身に苦痛などがなく、快く安らかに家事労働を行うことで家事労働者の生活にゆとりを与える。

この3つを統括するような空間を提案する。

- A. 家事労働を楽しめるような空間とは何か？
- B. 家事労働を早くこなせるような空間とは何か？
- C. 家事労働が楽になるような空間とは何か？

初めに、提案を行う上での基礎データを収集する。ここでは特に負担となっている家事労働は何かアンケートを行い、結果を分析する。

アンケート結果①～⑦と上記の3つの視点とを掛け合わせ、分析を行う。

##### 【アンケート分析結果】

	楽しい	早い	簡単(ラク)
①料理を作りたくなる空間	誰かと一緒に作れる	動線が少ない	←
②食器を洗いたくなる空間	2人でできる	絶対量を減らす	機械で行う
③衣類をたたみたくなる空間	絶対量を減らす	←	機械で行う
④掃除したくなるお風呂	綺麗を維持出来る	動作が簡潔	←
⑤衣類をしまいたくなる空間	仕舞うことで部屋のイメージを作る(インテリアとする)	動作が簡潔	仕舞いやすい広さ
⑥掃除機をかけたくなる空間	丸くかけられる(部屋の角が無い)	動作が簡潔	←
⑦掃除したくなるトイレ	動作が簡潔 綺麗を維持出来る	動作が簡潔	←

(※←は隣の内容と同様であることを示す)

家事労働量を減らすべき空間は大きく分けて3つである。

- ①料理に関わる空間 (=キッチン)
- ②洗濯物を畳む、しまう空間
- ③掃除全体に関わる空間

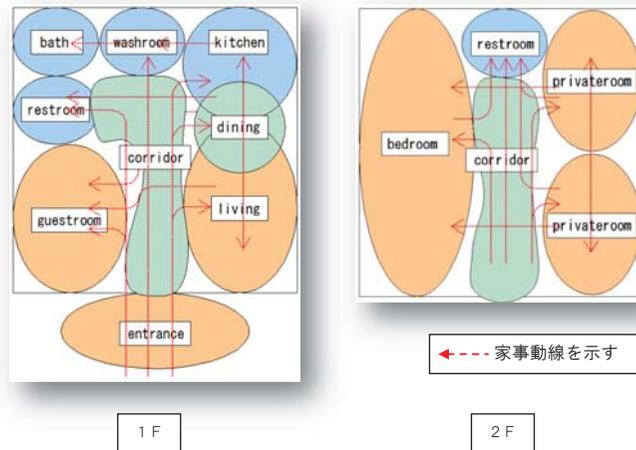
この3つを改善すべき空間として設定し、改善策を提案する。

【空間の提案】

まず、一般的な住宅空間を下記のように設定する。

(※ここでは一軒家、マンション、アパートは区別せず、総合的な提案とする。)

a. 既存住宅ゾーニング



←---家事動線を示す

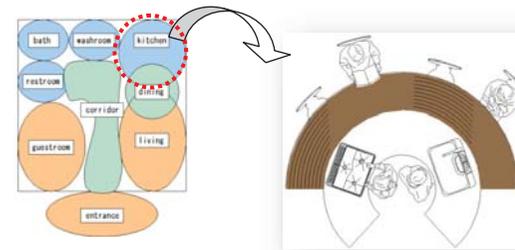
1 F

2 F

1, 2階共に動線が大変交錯しており、このことは③掃除全体に関わる空間に対する不満につながっていると仮定する。

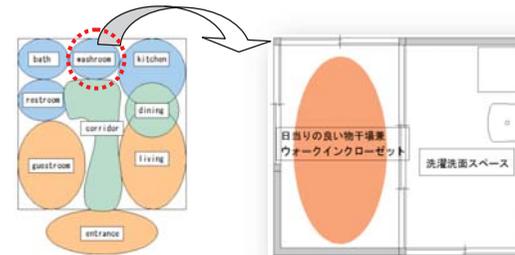
①料理に関わる空間 (=キッチン)、 ②洗濯物を畳む、しまう空間は他の部屋と比較してみると、少々狭隘していることが分かり、他の個別空間との広狭についても改善すべきである。

①料理に関わる空間 (=キッチン)



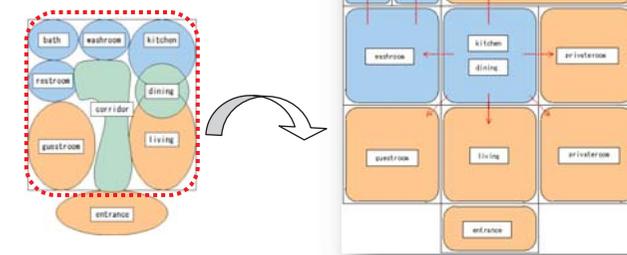
キッチンを部屋の中心に設置し、動線を一部分で済ませられるようにする。作業台下部は食洗機、机下部は食器棚とし、動きが簡潔となるようにする。

②洗濯物を畳む、しまう空間



洗う、干す、畳む、仕舞うを一つの場所で全て行える空間を提案する。畳む、仕舞うが必要が無いよう、干した場所がそのままウォークインクローゼットの機能となる空間とする。

③掃除全体に関わる空間



現代の掃除方法となる「掃除機かけ」で苦戦するのは、部屋の角すみずみまで、掃除機をかける必要があること、また床面に接しているものを退かす必要があるということである。この2つを解消した空間を提案する。角が無い(丸い)空間と、物(家具など)が全て壁に収納出来る空間である。

【総括】

上記の提案をまとめると、以下の通りとなる。

- ①料理に関わる空間（＝キッチン）→センターコアなキッチン
- ②洗濯物を畳む、しまう空間→洗う、干す、畳む、仕舞うを纏めた  
ウォークインクローゼット
- ③掃除全体に関わる空間→角が無い（丸い）空間  
物（家具など）が全て壁に収納出来る空間

ということになる。

現代の建築技術で簡単に解消出来るものとそうでないものがある。

住宅はデザインだけでなく、機能性、しいてはイニシャル・ランニングなどのコストバランスも重要である。

コストをかければ提案内容は全て解消できるかもしれないが、コスト計画も行い、希望する全ての家事労働者が空間を手に入れられるように対応していくことが今後の課題ではないだろうか。